



2018/19コーヒー年度は2年連続の生産過剰となった

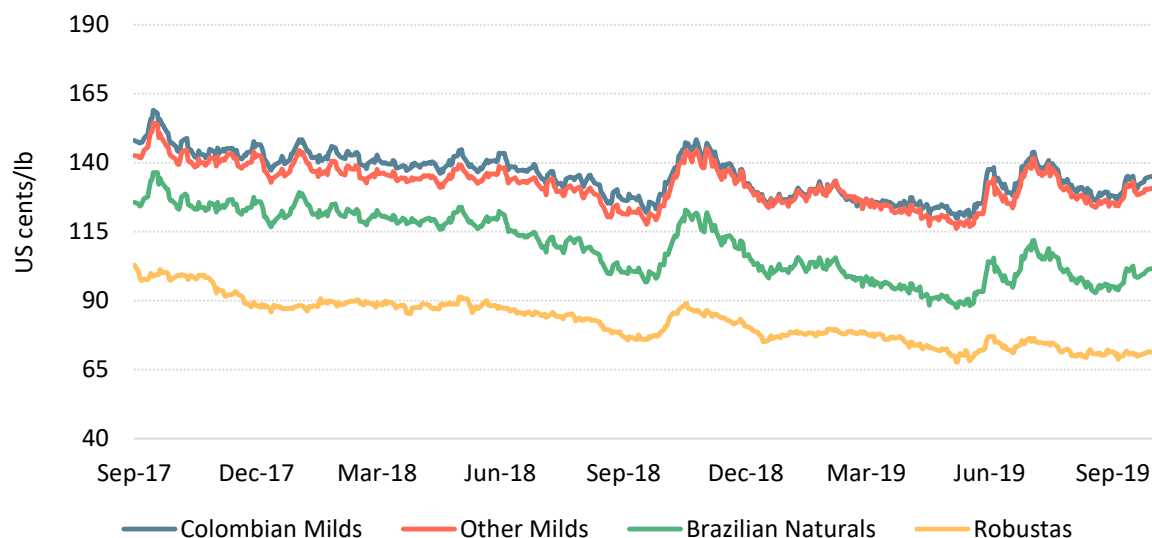
2018/19年度の世界コーヒー生産量は、前年比3.7%増の1億6,887万袋と推定され、アラビカが1.8%増の1億268万袋、ロブスタが6.7%増の6,604万袋である。2018/19コーヒー年度の供給量の増加は経過11か月間の輸出量増加に反映されており、その期間の世界輸出量は9.2%増の1億2,028万袋で2017/18年度通期の総輸出量を上回っている。世界のコーヒー消費量は2.1%増の1億6482万袋と推定されているが、コーヒー生産量はこれを405万袋上回っている。この生産過剰が今シーズンの低価格の主因である。ICO複合指標価格は9月平均が97.74セント（米セント/ポンド、以下同様）で、2018/19コーヒー年度の平均は100.47セントとなった。アラビカグループの指標価格は9月上昇したが、一方でロブスタは2010年4月以来最低の月次平均価格まで下落し70.64セントとなった。

図 1: ICO複合指標価格



ICO複合指標価格は2019年9月平均が97.74セントで8月対比1.7%上昇した。9月5日に月間の最低価格94.01セントをつけ、9月16日に月間の最高価格100.29セントをつけたが、9月の複合指標価格が100セント超えをしたのはこの1日だけだった。

図 2: ICOグループ指標価格



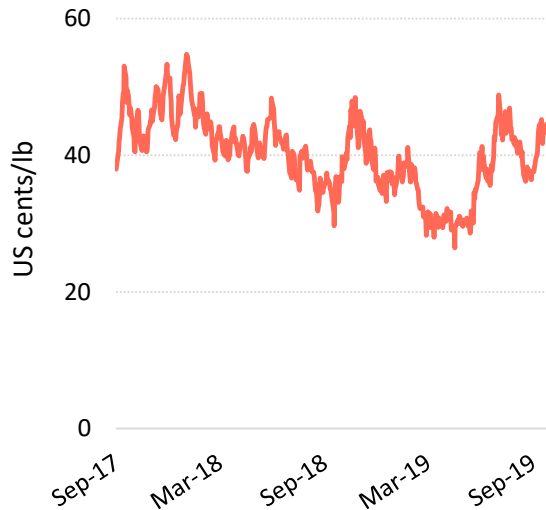
© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

2019年9月、アラビカグループの指標価格は上昇した。ブラジルナチュラルは最大の上昇を記録し月次平均は3%上げて98.73セントとなった。コロンビアマイルド、アザーマイルドはともに2.1%上昇しそれぞれ131.90セント、128.89セントだった。一方、ロブスタは2010年4月以来最低の月次平均に下落し前月比0.2%下げの70.64セントとなった。ブラジルとベトナムのロブスタ生産が2年連続して増加したことが価格下落の主因である。

ニューヨークとロンドンの先物市場で測定されるアラビカとロブスタのアービトラージは、9.1%上昇して42.50セントとなった。これはニューヨーク先物が2.9%上昇する一方でロンドン先物が1%下落したことに依る。ロンドン先物はこの下落により2010年3月以来の最低水準でありロブスタ指標価格の下落を反映している。さらに、ロンドン先物市場の認証在庫は6か月連続で増加し2019年9月は262万袋に達している。これは2018年9月の水準を111万袋上回っている。

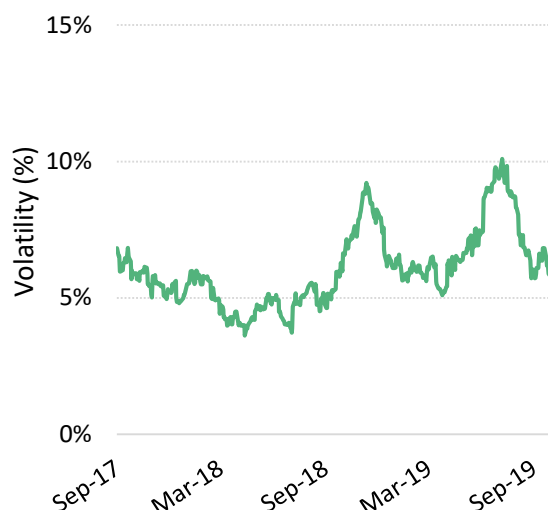
ICO複合指標価格のボラティリティ(Intra-day-volatility)は0.6ポイント低下して6.3%となった。アラビカグループのすべての指標価格ボラティリティが低下したことによる。コロンビアマイルドは0.6ポイント低下して6.0%、アザーマイルドは1.1ポイント低下して6.1%、ブラジルナチュラルは1.1ポイント低下して8.2%だった。ロブスタのボラティリティは6.2%で8月対比0.6ポイント上昇している。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場の
アービトラージ



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO複合指標価格の30日移動平均
価格変動率



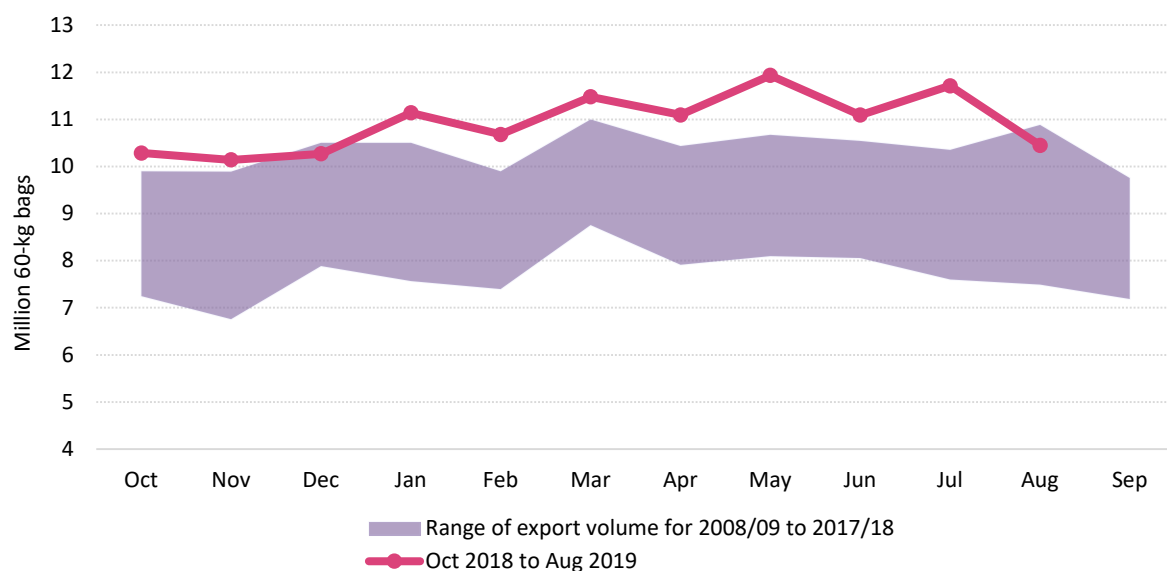
© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018/19コーヒー年度の世界生産量は3.7%増加して1億6,887万袋と推定されている。この数字には、4月と7月に収穫期が始まる生産国のニュークロップが部分的に含まれている。アラビカとロブスタともに2018/19年度は増加しているが、増加の大部分はロブスタによるもので、ロブスタは2017/18年度対比6.7%増の6,604万袋である。アラビカは1.8%増の1億268万袋である。

生産量はメキシコ&中央アメリカを除くすべての地域で増加した。メキシコ&中央アメリカでは生産量が0.8%減少し2,147万袋となっている。世界のコーヒーのほぼ半分が南アメリカで生産されているが、**2018/19コーヒー年度の世界生産量は4.8%増の8,095万袋と推定されている。**アジア・オセアニアは4.6%増の4,846万袋、またアフリカは1.9%増の1,799万袋と見込まれる。

2018/19コーヒー年度の供給量増加は輸出量の増加に反映されている。**2018年10月から2019年8月までの11か月間に、世界のコーヒー輸出量は2017/18年度の同時期より9.2%増加し1億2,028万袋に達した。**2018年10月から2019年8月までのアラビカ輸出量は2017/18年度同時期より11.3%増加している。コロンビアマイルドおよびブラジルナチュラルの輸出増加が、アザーマイルドの輸出減少を相殺した。コロンビアマイルドは8.6%増の1,388万袋、またブラジルナチュラルは25.4%増の3,857万袋である。コロンビアマイルドの大部分はコロンビアから輸出され2018年10月から2019年8月までに輸出量は7.8%増加し1,253万袋だった。タンザニアとケニアもこの期間中に輸出は増加しており、輸出量はタンザニアが47.4%増の104万袋、ケニアが11%増の74万袋だった。ブラジルの輸出量は31.1%増の38.72百万袋でブラジルナチュラルの輸出が増加したことに依る。ただし、ブラジルナチュラルの第二位輸出国であるエチオピアはその輸出量が4.8%減少し323万袋となっている。

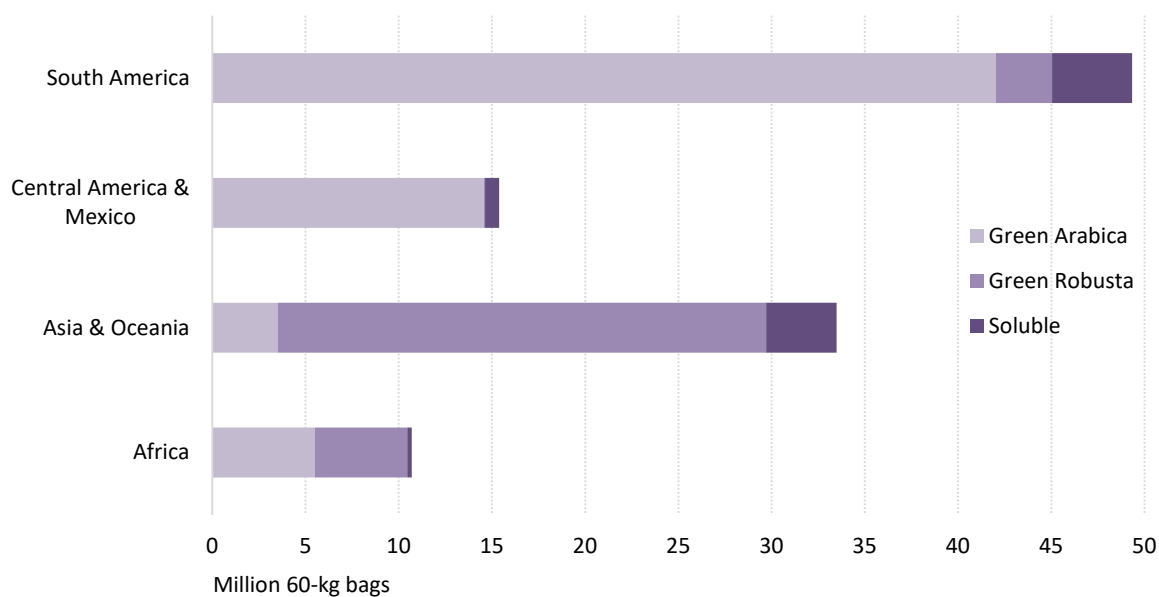
図 5: コーヒー輸出量の月次推移 2018/19年度と過去10年の対比



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

アザーマイルドは2018年10月から2019年8月の11ヶ月間では4.1%減の2,499万袋だった。この期間中、アザーマイルドグループの輸出上位10カ国のうち6カ国が減少した。ホンジュラスの輸出は5.1%減の657万袋、ペルーは7.3%減の314万袋、メキシコは11.7%減の253万袋だった。しかし、グアテマラの輸出は5%増加して334万袋、ニカラグアは13.2%増の264万袋である。

図 6: 地域別のコーヒー輸出量 2018年10月～2019年8月



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

ロブスタの輸出量は2018/19コーヒー年度の経過11か月では5.6%増の4,284万袋だった。ベトナムは世界最大のロブスタコーヒー輸出国であり、その輸出量は3.9%増の2,497万袋である。しかしながら、インドの輸出が5.6%減の562万袋、インドネシアが9.8%減の482万袋となった。ウガンダの輸出は安定しており、2018年10月から2019年8月では0.6%増の409万袋である。ラオスは8.4%減少し32万袋だったが、コートジボワールが49.1%増の162万袋でラオスの減少を相殺した。

2018/19コーヒー年度の輸出量は前年に対して増加基調で推移してきたが、2019年8月の輸出量は1,045万袋で2018年8月に比べ4%減少している。アラビカが2.3%減の654万袋、ロブスタは6.6%減の390万袋である。アラビカの減少は、2019年8月のアザーマイルド輸出量が15.3%減の199万袋だったことが要因である。ブラジルナチュラルの輸出量は327万袋と安定しているが、一方、コロンビアマイルドは18.3%増の129万袋だった。

2018/19コーヒー年度の世界コーヒー消費量は2.1%増加し、1億6,482万袋に達したと推定されている。輸入国の消費は2.4%増加して1億1,451万袋、一方、輸出国の消費は1.3%増加の5,031万袋で世界消費量の30.5%に相当する。

2018/19年度のコーヒー生産量は世界の消費量を405万袋上回っており、2年連続の生産過剰を記録した。過剰数量の2年累計は548万袋である。これが今年度の国際コーヒー価格低迷に強く影響しており、2018年10月から2019年9月までの複合指標価格平均は100.47セントである。比較すると、2017/18年度の複合指標価格平均は111.51セント、2016/17年度は132.43セントだった。加えて、2018/19年度のコーヒー輸出量は新記録を樹立し価格に対して更なる圧力をかけた。2018/19コーヒー年度の経過11か月の総輸出量1億2,028万袋は、2017/18年度通期の総輸出量をすでに超過している。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Sep-18	98.17	125.74	121.18	99.87	76.70	102.83	68.03
Oct-18	111.21	140.83	137.34	115.59	85.32	119.73	77.16
Nov-18	109.59	139.27	137.11	113.27	83.52	117.06	75.23
Dec-18	100.61	127.86	127.10	102.10	77.57	105.79	69.59
Jan-19	101.56	129.28	128.46	102.94	78.24	107.93	70.32
Feb-19	100.67	127.93	128.45	100.06	78.65	104.12	70.52
Mar-19	97.50	125.23	123.89	95.81	76.96	98.84	68.61
Apr-19	94.42	124.42	121.13	92.47	73.28	95.31	65.06
May-19	93.33	124.40	120.55	91.95	71.12	94.86	62.45
Jun-19	99.97	133.49	129.73	100.69	74.02	104.44	65.41
Jul-19	103.01	137.63	135.47	105.43	73.93	109.01	64.83
Aug-19	96.07	129.20	126.23	95.85	70.78	99.87	60.90
Sep-19	97.74	131.90	128.89	98.73	70.64	102.81	60.31
% change between Aug-19 and Sep-19							
	1.7%	2.1%	2.1%	3.0%	-0.2%	2.9%	-1.0%
Volatility (%)							
Aug-19	6.3%	6.0%	6.1%	8.2%	6.2%	8.4%	6.9%
Jul-19	6.9%	6.6%	7.2%	9.3%	5.6%	10.1%	6.8%
Variation between Aug-19 and Sep-19							
	-0.6	-0.6	-1.1	-1.1	0.6	-1.7	0.1

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Sep-18	4.56	25.87	49.04	21.31	44.48	23.17	34.80
Oct-18	3.49	25.24	55.51	21.75	52.02	30.27	42.57
Nov-18	2.16	26.00	55.75	23.84	53.59	29.75	41.83
Dec-18	0.76	25.76	50.29	25.00	49.53	24.53	36.20
Jan-19	0.82	26.34	51.04	25.52	50.22	24.70	37.61
Feb-19	-0.52	27.87	49.28	28.39	49.80	21.41	33.60
Mar-19	1.34	29.42	48.27	28.08	46.93	18.85	30.23
Apr-19	3.29	31.95	51.14	28.66	47.85	19.19	30.25
May-19	3.85	32.45	53.28	28.60	49.43	20.83	32.41
Jun-19	3.76	32.80	59.47	29.04	55.71	26.67	39.03
Jul-19	2.16	32.20	63.70	30.04	61.54	31.50	44.18
Aug-19	2.97	33.35	58.42	30.38	55.45	25.07	38.97
Sep-19	3.01	33.17	61.26	30.16	58.25	28.09	42.50
% change between Aug-19 and Sep-19							
	1.3%	-0.5%	4.9%	-0.7%	5.0%	12.0%	9.1%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Coffee year (October to September)	2014	2015	2016	2017	2018*	% change 17/18 to 18/19
PRODUCTION	150 511	156 041	157 293	162 853	168 869	3.7%
Arabica	87 516	93 273	99 531	100 877	102 683	1.8%
Robusta	62 879	62 749	57 716	61 902	66 041	6.7%
Africa	17 123	16 804	17 759	17 649	17 986	1.9%
Asia & Oceania	46 365	49 343	45 341	46 346	48 462	4.6%
Mexico & Central America	16 093	16 036	19 274	21 634	21 468	-0.8%
South America	70 930	73 858	74 920	77 224	80 953	4.8%
CONSUMPTION	151 002	155 452	158 283	161 422	164 819	2.1%
Exporting countries	46 666	47 548	48 458	49 648	50 307	1.3%
Importing countries (Coffee Years)	104 336	107 904	109 825	111 774	114 512	2.4%
Africa	10 706	10 862	11 147	11 476	11 820	3.0%
Asia & Oceania	31 596	32 911	34 244	34 621	35 889	3.7%
Mexico & Central America	5 230	5 305	5 174	5 253	5 263	0.2%
Europe	50 991	52 140	52 043	53 155	53 967	1.5%
North America	27 363	28 934	29 559	29 941	30 606	2.2%
South America	25 116	25 300	26 116	26 976	27 274	1.1%
BALANCE	-491	589	-989	1 431	4 050	

In thousand 60-kg bags

*preliminary estimates

Note: Data on crop year production can be found at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出力

	Aug-18	Aug-19	% change	October-August		
				2017/18	2018/19	% change
TOTAL	10 880	10 448	-4.0%	110 158	120 283	9.2%
Arabicas	6 699	6 544	-2.3%	69 602	77 440	11.3%
Colombian Milds	1 091	1 290	18.3%	12 787	13 882	8.6%
Other Milds	2 345	1 987	-15.3%	26 060	24 988	-4.1%
Brazilian Naturals	3 263	3 267	0.1%	30 755	38 569	25.4%
Robustas	4 182	3 904	-6.6%	40 556	42 843	5.6%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫

	Sep-18	Oct-18	Nov-18	Dec-18	Jan-19	Feb-19	Mar-19	Apr-19	May-19	Jun-19	Jul-19	Aug-19	Sep-19
New York	2.70	2.78	2.79	2.80	2.82	2.83	2.84	2.81	2.75	2.70	2.70	2.66	2.60
London	1.51	1.58	1.77	1.88	2.08	2.01	1.97	1.98	2.11	2.18	2.47	2.60	2.62

In million 60-kg bags

=== 海外情報トピックス ===

2019年10月海外情報トピックスは、9月23日から1週間にわたり英国・ロンドンで開催された第125回ICO国際コーヒー機関の理事会について以下の通りご報告します。 会員各位のご参考となれば幸いです。

第125回ICO理事会について

9月23日（月）から27日（金）の間、英国ロンドンにおいて第125回ICO国際コーヒー機関理事会および関連会議が開催されましたので概要をご報告致します。

理事会 (ICC International Coffee Council)

初日の全日を使用して「CEO & Global Leaders Forum」がICO決議465（※1）の主要施策として実施された。

（※1）決議465 Coffee Price Level（ICO理事会2018年9月）

決議465は7項目で構成されるがその内容は大きく4つのカテゴリーに整理されている。

1. コーヒーのバリューチェーンのすべての利害関係者、特に焙煎業界を含めた対話を促進しコーヒーを生産する人々の経済的存立を確保する。
2. Coffee Crisisに関連したトピックに関する高レベルで透明性のある独立した研究とデータを作成する。
3. コーヒーの消費、特にコーヒー生産国における国内消費を促進する。
4. 世界中のコーヒー生産者の実情・窮状に注意を喚起するため、消費者に焦点を絞ったコミュニケーション計画を含む支援措置を実施する。

上記1においては「コーヒー価格危機に対処する為のコーヒーセクター全体での対話」（Structured sector-wide dialogue to address the coffee price crises）として本年4～9月、コーヒー生産者が直面している深刻な状況に対する解決策についてDevelopment Organization/Private Sector/NGO等と話し合うための一連の協議イベントが世界3か所（ニューヨーク、ローマ、ブリュッセル）で実施され、今回の「CEO & Global Leader Forum」はその集大成と位置づけられている。

フォーラムには、ネスレ、スターバックス、JDE、illycafe、オラム等の経営幹部他18名がパネリストとして参加し、パネルディスカッションが行われた。参加者・パネルテーマの詳細は参考資料①の通り。因みに司会進行役はアルジャジーラ・UK（アラビア語・英語ニュースの24時間衛星テレビ局）の著名アンカーウーマンが起用された。フォーラム終了後、今回フォーラムの成果物であり同時に、これまで一連のStructured sector-wide dialogue to address the coffee price crisesの成果物とも言える宣言文「London Declaration」（参考資料②原文・③邦訳）がプレスリリースされ「2019年9月23日ロンドン、世界的なコーヒーロースター、コーヒートレーダー、コーヒー小売業がコーヒーの経済的サステナビリティについての歴史的な宣言に署名」として公表された。今回フォーラムはPSCB民間部門諮問委員会（全協は本委員会の消費国側委員）のスペシャルイベントとして開催されているが、宣言自体はコミットメントを表明した署名企業11社および支持を表明した11団体（いずれもフォーラム実施時点での企業・団体数）によるPrivate Sectorの文書・宣言であることから、ICOはこの宣言を理事会の審議に付しEndorse（裏書・承認）を得る段取りであった。宣言文中においても「理事会（ICC）は宣言をEndorseすること、ICOは関係機関団体と継続して努めること」が「Specifically REQUEST（具体的な要請）」として明確に述べられている。

ところが、

理事会最終日、PSCB委員長（Mr. Anil Kumar Bhandar, President of the India Coffee Trust, Chairman of Steering Committee of the 5th World Coffee Conference 2020）から提案された「London Declarationの理事会によるEndorse」が生産国側の反対により保留される事態が発生した。コロンビアが口火を切るとケニア、インドネシア、中米諸国等、多数の生産国が次々に反対趣旨の発言を行いった。その主張要旨は以下2点である。

- ・決議465はその題名Coffee Price Levelsが示す通り、価格水準問題であるにも拘らず今回宣言文には価格是正に関する「具体的施策・手段」が示されていない。
- ・PSCBには生産国側メンバーも（多数）存在するが文案作成等に関与しておらず、用語の定義に不明点も多い。

（一部誤解あり、文案取り纏めはICO事務局/コンサルタントが実施しておりPSCBの文書ではない。）

議論の結果、

コートジボアール、パプアニューギニア、ブラジル等の提案に基づき、Endorseに替えて以下を要旨とする決議（ICC 125-10）が行われた。

○ICOメンバー国はSDGs達成に向けて宣言文の署名企業他と協業し今後の行動を詳細かつ具体的なものにする。

○輸出国および輸入国のICOメンバーは「持続可能なコーヒーセクター」に向け、それぞれ自国の関係団体等と宣言文記載内容に関する個別必要事項・優先事項・コミットメントを協議する。

○ICOは、加盟国メンバー、民間部門代表（宣言署名企業）、支援機関他とタスクフォースを設置し、コーヒー価格水準/ボラティリティならびに長期的なサステナビリティに対処するためロードマップを作成しアクションプランを提案する。

今回理事会におけるその他の主要議案・報告、および各委員会での議事要旨は以下の通り。

ICO加盟国数の増減について

パラグアイの脱退（正式申請受理済み、発効は2019年11月）が報告された。

一方、韓国、ナイジェリアの加盟手続きが最終段階にあり近々加盟が実現する見通しであることが補足説明された。また、Brexit（英国の欧州連合離脱）完了の段階で英国はICOに加盟意向であることが参考情報として伝えられている。評議会期間中、オブザーバー参加していた韓国側出席者（民間）と接触する機会があり、加盟の進捗について率直に尋ねたところ「本年中には完了する」との返答があった。なお、2019年9月末現在の加盟国は輸出国44、輸入国6（欧州連合28カ国は1国として取扱）である。

Progress report on the 2007 Agreement

現行の国際コーヒー協定（ICA2007）は2021年2月に期間満了することから、その延長・改定等を検討するワーキンググループが組成され、既に加盟各国からの意見聴取等が進められているが、掲題レポートはその検討材料として作成され今回理事会に報告されたもの。内容は現行協定が発効した2011年から2019年までのICOの主要活動を網羅している。

その後段「International Coffee Day」の項には全協（AJCA）から受けた支援について謝意を込めて記載されている。

International Coffee Day 2019

決議465を強く意識し、コーヒー生産国の社会・経済・環境サステナビリティに焦点を当てた内容のキャンペーンを実施していることが報告された。#coffeepledgeについては全協事務局より既にご案内の通り。本キャンペーンは百万人の署名を目標に掲げたが出足が悪く、IC0/ICD事務局スタッフには若干ながら気落ちの様子が伺えた。

Coffee Development Report 2019

IC0は本レポートを「IC0初の経済分野における旗艦刊行物」(the first issue of the new economic flagship publication)と位置づけており、セッチ事務局長が自ら概要をプレゼンした。コーヒーセクターの経済的現状・課題・解決策等を示したもので作成に当たっては、ドイツ連邦経済協力開発省の支援を受けている。表紙および目次は参考資料④の通り。なお、fullversionは全80頁、以下Webにて入手可能。

<https://www.internationalcoffeecouncil.org/eng/coffee-development-report.php>.

第9回 Consultative Forum on Coffee Sector Finance

テーマは生産者にとってのコーヒー価格変動リスク減殺の手法であったが、ブラジルにおける事例として紹介されたBarter Operationがアフリカ諸国の注目を集めた。肥料農薬あるいは精選設備(主として部品)の取得代金、必要に応じ教育用資金の融通を行ない、その返済をグリーンコーヒーで行なうもの。プレゼンを行ったノルウェーの大手肥料販社Yara Internationalによれば、同種の融資手法は他種作物含めこれまでも存在したが、融資額の設定限度と返済充当するグリーンコーヒー評価額が度々問題を生じ手法の定着が難しかった。ブラジルでは、資金使途と融資限度額に安全性を見ると同時に、返済するコーヒーの評価額は国際価格に準ずるものとしており、農家の価格リスクを一定範囲に抑える効果があることから評価を受けているとの説明があった。

統計委員会 (SC)

前回3月の委員会決定に沿い、IC0統計用のグリーンコーヒー換算係数(焙煎豆、カフェインレス、インスタント等からの生豆換算率)についての調査結果が報告された。回答の大半が現状の換算係数の継続が妥当とのことから改訂不要との委員会意見が理事会に答申された。

(現行換算計数; 焙煎豆1.19、カフェインレス1.05、インスタント2.6)

なお、2年毎に実施されるIC0複合指標価格(IC0 composite indicator)算定に使用されるグループ別コーヒー構成比率の改訂は前回統計委員会および理事会で承認されており、本年10月統計から使用される。(Colombian Milds:12%(11%)、Other Milds:21%(20%)、Brazilian Naturals:30%(31%)、Robustas: 37%(38%) 括弧内は改訂前)

プロジェクト委員会 (PJ)

コロンビアにおけるSatCafeプロジェクトが豊富なスライド映像とともに紹介された。衛星観測写真を使用した生育状況のモニターにより、施肥の実施時期や適正な収穫時期の識別決定が農場を細分化したParcel単位で管理可能となるもの。シェードツリーへの対応、曇天時の情報取得とその精度など未だ課題はあるものの着実に効果が出てきているとのこと。AgDevCo(アフリカの小～中規模農家への投資会社)から、ウガンダGreat Lakes Coffeeの事例が紹介され、積極的な農場投資により品質改善が図られ欧米大手への販路拡大に実績が上がっていると力説された。

販売促進・市場開拓委員会 (PM)

生産国の消費拡大マニュアルとしてのStep by Step Guideの改訂作業の進捗状況が報告された。改訂・加筆等について11か国から改訂要請が寄せられたとのこと。今後はNCAまたSCAに対する意見聴取などを行なうこととなる。

国際コーヒーディ・ICD2019キャンペーンビデオが上映され、事務局より #coffeepledgeへの参加呼びかけがあった。（事務局認識としては予想外の低調な滑り出しの様子であった）持参した全協の2018年9月のLife with CoffeeフォトコンテストのDVD映像（英語版）が大画面に披露され各国から横山会長宛ての表敬の言葉を頂戴した。

民間部門諮問委員会 (PSCB)

今回はPSCB単独での委員会開催は実施せず。

（CEO&Global Leader Forumをスペシャルセッションとして開催された。）

次回126回IC0理事会は、2020年4月27日～5月1日 ロンドンにて開催予定。

また、

第5回世界コーヒー会議（参考資料⑤）は2020年9月7日～9日、第127回IC0理事会は9月10日～12日、共にインド・バンガロールにて開催予定。

最後に、

今回のIC0理事会には日本政府代表として、農林水産省国際食料情報分析官大山誠一郎氏、在英国日本国大使館参事官松本修一氏に御出席頂きましたことをご報告致します。

以上／武藤

Forum Programme - Panel and Panellists

Monday 23 September 2019 /

(マークは London Declaration 署名企業)

11:00 – 11:20

OPENING

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

Chairperson: Anil Kumar Bhandari, Chair, Private Sector Consultative Board (PSCB)

11:20 – 12:20

PANEL I: PROMOTING COMPETITIVE AND SUSTAINABLE PRODUCTION

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

Panellists:

- Kelly Goodejohn, Director, Ethical sourcing and Traceability, Starbucks
- Juan Pablo Ibarra, Chief Operational Officer, Mercon Coffee Corp.
- Andrea Illy, Chairman, illycaffè S.p.A.
- Jacobo Paz, Presidential Delegate to the National Coffee Council, Republic of Honduras
- Nicolas Tamari, CEO, Sucafina

13:50 – 14:50

PANEL II: FOSTERING RESPONSIBLE AND EQUITABLE GROWTH

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

Panellists (A-Z):

Oumer Hussien, Minister of Agriculture, Ethiopia

Sebastian Lesch, Head of Division 121, German Federal Ministry for Economic Cooperation and Development (BMZ)

Benedicte Poinssot, Vice President Operations, Beverages Strategic Business Unit, Nestlé

Katharina Roehrig, Managing Director Sustainability & Communications, Melitta

14:50 – 15:50

PANEL III: IMPROVING MARKET STRUCTURE AND TRANSPARENCY

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

Panellists (A-Z):

- Amir Levin, COO, Strauss
- Trishul Mandana, Managing Director, Volcafe Holding Ltd

[ここに入力]

参考資料①

- Nguyen Do Anh Tuan, Director General, Department for International Cooperation, Ministry of Agriculture and Rural Development, Vietnam
- Roberto Velez, CEO, Colombian Coffee Growers Federation FNC

16:05 – 17:05

PANEL IV: FOSTERING SUSTAINABLE PRODUCTION AND CONSUMPTION

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

Panellists (A-Z):

- Pablo Anliker, Minister of Agriculture and Livestock, El Salvador
- Thos Gieskes, Managing Director, Oikocredit
- Daniel Martz, Chief Corporate Affairs Officer, Jacobs Douwe Egberts (JDE)
- Vivek Verma, Managing Director and CEO of Coffee Division, Olam

17:05 – 18:00

PRESENTATION OF THE ‘LONDON DECLARATION’

Key Issues

- Highlights of the Forum by the Moderator
- The London Declaration and Road Map: presentation of signatories and supporters followed by discussion
- Closing remarks

Moderator: Maryam Nemazee, Al Jazeera

- Anil Kumar Bhandari, Chair, Private Sector Consultative Board (PSCB)
- José Sette, Executive Director, ICO
- Stefanie Küng, Chair, International Coffee Council

From 18:00 -20:00

DELEGATES RECEPTION

**London Declaration on price levels,
price volatility and the long-term
sustainability of the coffee sector¹**

Following the CEO & Global Leaders Forum of the coffee sector held on September 23, 2019²,

THE UNDERSIGNED ORGANIZATIONS;

RECOGNIZING the economic and social importance of coffee as a vital source of income and employment for millions of people, and as a source of enjoyment for consumers across the globe;

BEING DEEPLY CONCERNED about the current coffee price crisis, including price fluctuations and the reoccurring nature of price shocks, and the impact this has on the economic viability of coffee growers, the social and environmental sustainability of the value chain in most producing countries, and the sector's ability to secure and maintain diversity of origins;

TAKING INTO ACCOUNT existing and newly developed initiatives by the coffee sector including those led by international, regional, and national associations, voluntary sustainability schemes, individual companies, non-governmental organizations, and governments;

RECOGNIZING that the complex nature of the issues requires joint efforts by both private and public entities, each within their own areas of intervention according to their role in the coffee sector in line with and contributing to the 2030 Agenda for Sustainable Development of the United Nations;

RECOGNIZING the role of the International Coffee Organization (ICO) as the inter-governmental body for coffee with membership of both exporting and importing countries as defined in the International Coffee Agreement (2007);

HAVING BEEN ENGAGED in the Structured Sector-Wide Dialogue led by the ICO as part of the implementation of the Resolution 465 on coffee price levels adopted by the International Coffee Council at its 122nd Session in September 2018; and

¹ *The London Declaration is a non-legally binding public commitment of the undersigned organizations.*

² *The Forum is held as a Special Session of the Private Sector Consultative Board established under the International Coffee Agreement (2007).*

BEING AWARE of the various laws and regulations regarding anti-trust;

COMMIT TO

concrete shared and individual time-bound actions aligned with this Declaration, as well as the extension of the coffee sector dialogue on long-term and transformational solutions, focusing on:

- **Promoting competitive and sustainable production**, through increasing resilience of farmers against shocks, improving access to finance, promoting research and development in new varieties, supporting further improvements in quality and differentiation, improving production technologies, supporting efficiency improvements among smallholders, promoting sustainable use of natural resources, and preventing deforestation and forest degradation in the supply chain;
- **Fostering responsible and equitable growth** through contributing to increased market transparency regarding the Living Income gap, sourcing origins, and cost of production considering the diversity of producers and specific geographies, expanding responsible sourcing of sustainably produced and traded coffee from a diversity of origins, fostering the protection of human rights, fighting child labour and illicit labour practices, and enabling a Living Income for coffee producers;
- **Promoting responsible consumption** by taking measures to stimulate demand for sustainably sourced coffee from diverse origins in traditional and emerging markets, especially in producing countries; and
- **Promoting public-private dialogue regarding policy development** in exporting and importing countries to ensure efficient functioning of market institutions in order to prevent price distortion.

FURTHER COMMIT TO

take immediate action, before the next meeting of the CEO & Global Leaders Forum, towards:

- **Further development and alignment of individual, concrete, time-bound action plans** in line with this Declaration;
- **Establishment of market and supply chain information systems** to support transparency efforts on Living Income, cost of production and living, use of natural resources, and the risks of coffee contributing to deforestation and forest degradation;

- **Active participation in national (producing and consuming country) dialogues** to ensure the further development and operationalization of this Declaration; and
- **Allocation of resources** towards the realization of shared actions in line with this Declaration, and towards exploring the set-up of a global multi-stakeholder funding mechanism with the goals of: leveraging investment in the coffee sector through blending of public and private sector funding, incentivising environmental and social stewardship, fostering development of sustainable coffee regions, supporting transparency efforts and policy reform, building additional capacity for relevant policy development and enforcement in producing countries, and reducing poverty.

AND TO

- **Hold** a second meeting of the CEO & Global Leaders Forum preferably during the fifth World Coffee Conference to be held in Bengaluru, India, 10-12 September 2020,
- **Ensure** active participation (through attendance of their representative, or “Sherpa”) in follow-up mechanisms and meetings to be facilitated by the ICO in the period October 2019 – August 2020 to foster the further development and operationalization of this Declaration, in an inclusive and participatory manner, through the alignment of individual action plans, the development of additional joint action, and to review progress;
- **Ensure** alignment with coffee sector organizations and associations in the implementation of this Declaration;
- **Engage** their networks, with the goal of fostering the representation and input of key sector stakeholders in the development and operationalization of the process in the period October 2019 – August 2020; and
- **Present** further concrete, time-bound individual and shared commitments towards long-term and transformational solutions, in combination with the outcome of the immediate actions that follow from this Declaration, at the next meeting of the CEO & Global Leaders Forum.

In conclusion, THE UNDERSIGNED ORGANIZATIONS;

CALL ON

All coffee sector stakeholders to sign and support this Declaration and contribute to its further development and full realization;

Development partners to support the realization of the commitments contained in this Declaration by providing technical and financial resources to ensure that the coffee sector continue its efforts to implement the 2030 Development Agenda and the Sustainable Development Goals;

Governments of all countries to collectively and individually act on the following:

- **Committing to and further developing** joint solutions to address economic sustainability and diversity of production across the coffee sector, pursuing a Living Income for households depending on coffee cultivation as a major source of income and a Living Wage for workers in the coffee supply chain, based on the principle of shared responsibility for addressing economic inequality and realizing equitable growth;
- **Respecting and promoting** human rights through inter-alia fighting child labour and all illicit labour practices, the further inclusion and empowerment of youth and women in the coffee sector, and access to education;
- **Ensuring** the environmental sustainability of the sector through inter-alia preventing coffee production driven deforestation and forest degradation, increasing the sustainable use of natural resources like soil and water, mitigating greenhouse gas emissions, and increasing the resiliency of coffee production to the impact of climate change; and
- **Strengthening the policy environment** for sustainable production and consumption, through government policies in exporting and importing countries regarding efficient functioning of market institutions, responsible sourcing and trade, processing, commercialization and disposal, public-private partnerships, development of supply management tools, and improved infrastructure and producer support in producing countries.

And specifically **REQUEST**

the International Coffee Council to endorse this Declaration and instruct the ICO to continue its efforts, in close cooperation with coffee sector organizations including the Global Coffee Platform, the Sustainable Coffee Challenge, and the World Coffee Producers Forum, **to:**

- Identify drivers of positive change on the ground at a farmer level and ensuring that farmer voices are integrated into the process;
- Increase transparency in the coffee sector through the provision of world-class data and analytics and develop new tools and mechanisms in partnership with public and private sector representatives and organizations;
- Explore the set-up of a global multi-stakeholder funding mechanism, and, in accordance with the outcomes of the exploration, mobilise stronger political support and resources from multilateral mechanisms such as G7, G20, and United Nations General Assembly, international organizations as well as multilateral and regional financial institutions, and the private sector towards the creation of such a global multi-stakeholder funding mechanism to address the short- and long-term sustainability of the coffee sector;

- Facilitate the dialogue between governments of exporting and importing countries with industry stakeholders, the donor community and development partners as well as civil society at large;
- Engage all the coffee-sector national, regional and international private-sector associations to ensure a high level of harmonization and coherence of action;
- Pursue its structured sector-wide dialogue with all relevant stakeholders in order to formulate long-term and transformational solutions for the structural issues faced by the sector and hold the next meeting of the CEO & Global Leaders Forum during the fifth World Coffee Conference scheduled for September 2020 in Bengaluru, India;
- Mobilise additional resources to carry out its leadership role in coordinating and aggregating the commitments from all the coffee stakeholders including meeting of undersigned organization representative ("Sherpa"); and
- Set up a framework to monitor the progress in the realization of the commitments set in this Declaration by all involved parties and their impact on the sustainability of the coffee sector and specifically on farmers.

London, 23 September 2019

Undersigned organizations:

- illycaffè S.p.A.
- Jacobs Douwe Egberts (JDE)
- Lavazza S.p.A.
- Mercon
- Nestlé S.A.
- Neumann Kaffee Gruppe
- Olam
- Starbucks Coffee Company
- Sucafina
- Tchibo
- Volcafe

Supporting organizations:

- CLAC
- Fairtrade International
- Global Coffee Platform
- Hanns R. Neumann Stiftung
- IDH the Sustainable Trade Initiative
- National Coffee Association of the USA
- Oikocredit

- Rainforest Alliance
- Rusteacoffee
- Specialty Coffee Association
- Sustainable Coffee Challenge

ロンドン宣言
コーヒー価格レベル、価格変動および
コーヒー部門の長期持続可能性について

2019年9月23日に開催されたコーヒー部門のCEO&グローバルリーダーズフォーラムの終了後、

（本文書の）下記に署名した組織体は；

数百万人の重要な収入と雇用の源としての、また世界中の消費者の楽しみの源としての、コーヒーの経済的社会的重要性を認識し；

コーヒー価格危機が現在、価格の乱高下とその衝撃が繰返すことを含め、コーヒー生産者の経済的持続可能性、また多くの生産国での社会的環境的持続可能性、そしてコーヒーオリジンの多様性の維持確保について影響を与えていることを深く憂慮し；

既存あるいは新規に展開している様々なレベル（国際的、地域的な、全国組織的、自主的な持続可能性計画、個々の企業、非政府組織、政府主導を含む）でのコーヒーセクターによる構想を考慮に入れ；

問題の複雑な性質は、国連の持続可能な開発2030アジェンダに沿って貢献しているコーヒーセクターの役割に応じた取組みの中で、民間と公的団体との共同した努力を必要とすることを認識し；

国際コーヒー協定（2007）で定義されているように、輸出国と輸入国の双方がメンバーシップを持つコーヒーの政府間機構としての国際コーヒー機関（ICO）の役割を認識し；

2018年9月の国際コーヒー評議会第122セッションで採択されたコーヒー価格レベルに関する決議465の実施の一環として、ICOが主導するStructured Sector-Wide Dialogueにこれまで参画し；そして

反トラストに関するさまざまな法律および規制を認識しつつ；

（下記に署名の企業は）コミットする

この宣言に沿った具体的で共有可能な実行期限付きの個別行動および長期的で変革的ソリューションについてコーヒー部門の対話の継続に（コミットし）、
（以下の項目に）焦点を当てる：

・競争力のある持続可能な生産を促進する

農家の衝撃耐性向上、金融アクセスの改善、新品種の研究開発の促進、品質と差別化のさらなる改善の支援、生産技術の改善、小規模農家の効率改善の支援、天然資源の持続可能な利用促進およびサプライチェーンにおける森林破壊と森林劣化の防止を通じて、

・責任ある公平な成長を促進する

生産者と特定の地域の多様性を考慮した、生活所得のギャップ、調達元、および生産コストに関する市場の透明性の向上に貢献し、多様な起源から持続可能な方法で生産され取引されたコーヒーの責任ある調達を拡大し、人権の保護を促進し児童労働および違法な労働慣行と闘い、コーヒー生産者が生活できる所得を可能にすることを通じて；

・責任ある消費を促進する

多様なオリジンから持続可能な方法で調達されたコーヒーに対する、伝統的市場と新興市場、特に生産国における需要を刺激する手段を講じることで；そして

・政策立案における官民の対話を促進する

価格の歪みを防ぎ輸出国と輸入国が市場制度の効率的機能を確保できるよう。

さらにコミットする

次回のCEOグローバルリーダーフォーラムまでに直ちに行動を起こす：

・この宣言に沿った個別具体的な実行期限付き行動計画の更なる展開と調整；

・最低生活ができるだけの賃金、生産と生活のコスト、天然資源の使用、および森林破壊と森林劣化を招くコーヒーのリスクに対し、その透明性を高める取組みを支援するための**サプライチェーン情報システムの確立**；

・この宣言のさらなる発展と運用を確保するための**国家レベル（生産国と消費国）での対話の積極的な参加**；そして

・この宣言に沿った共同行動の実現と、以下を目標とするグローバルで多様なマルチステークホルダー資金調達メカニズムの設定を行うために**リソースを配置配分する**：

公共部門と民間部門の資金のブレンド、環境および社会的な受託責任へのインセンティブ、持続可能なコーヒー地域の開発促進、透明性の取組みと政策変革の支援、生産国における関連する政策開発と執行のための追加能力の構築、貧困削減、等々を通じてコーヒー部門への投資を挺入れする。

また

・2020年9月10～12日にインドのバンガロールで開催される第5回世界コーヒー会議で、第2回CEO&グローバルリーダーズフォーラムを開催する、

2019年10月から2020年8月の期間にIC0が推進するフォローアップおよび会議への積極的な参加（代表者、または「シェルパ」による）を**確実に実施し**、包括的かつ参加型の手法、個々の行動計画の調整、追加の共同行動の創出、および進捗レビューにより、この宣言のさらなる展開と運用を促進する。。

・この宣言の実施においてコーヒーセクターにおける各種の組織・協会との連携を**確保する**。

・2019年10月から2020年8月までの期間における手順の展開と運用において、主要なステークホルダーの代表者の参加とそのインプットを図るため彼らのネットワークを**活用する**、そして

・次回のCEO&グローバルリーダーズフォーラムにおいて、今回の宣言に続いて即時に行動した結果と合わせ、長期的かつ変革的なソリューションに対する具体的で実行期限のある個別および共同のコミットメントを**提示する**。

結論として、下記署名の組織は；

要請する

コーヒーセクターのすべてのステークホルダーがこの宣言に署名し、そのさらなる発展と実現に貢献すること；

開発パートナーは、コーヒーセクターが2030年開発アジェンダと持続可能な開発目標を実施するための努力が確実に継続できるよう、技術的および財政的リソースを提供することによりこの宣言に含まれるコミットメントの実現を支援すること；

すべての加盟国政府は、以下に基づいて集合的にまた個別に行動すること；

・経済的不平等に対処し公平な成長を実現するため、共同責任の原則に基づき、収入源をコーヒー栽培に依存する世帯が生活できる収入とコーヒーサプライチェーン労働者が生活できる賃金を追求し、コーヒーセクター全体の経済的持続可能性と生産の多様性に対処するため共同して解決を図ることに**コミットし更に展開させる；**

特に児童労働や違法労働慣行と闘い、コーヒーセクターにおける若者と女性の参画と権限を強化し、教育を受ける機会の拡大を通じて、人権の**尊重と浸透を図る；**

・特にコーヒー生産による森林破壊と森林劣化の防ぎ、土壌や水などの天然資源の持続可能な利用を増進し、温室効果ガスの排出を軽減し、気候変動影響に対するコーヒー生産の回復力の向上を通じて、コーヒーセクターの環境持続可能性を**確保する；**そして

・市場の機能効率化、責任ある調達/貿易/加工/商取引/廃棄、官民のパートナーシップ、供給を管理する手段の開発、生産国のインフラ改善と生産者サポート、に関する輸出国・輸入国の政府諸施策を通じて持続可能な生産と消費のための**政策環境の強化を図る。**

具体的な要請

国際コーヒー理事会が、この宣言を支持裏書し、国際コーヒー機関ICOに対してグローバルコーヒープラットフォーム、サステイナブルコーヒーチャレンジ、ワールドコーヒープロデューサーフォーラムなどのコーヒーセクター組織との緊密な協力の下、下記に向けて継続的に努力するよう示達する：

・農家の現場レベルで起きる明確な変化の要因を特定し、農家の声がプロセスに確実に反映される；

・世界水準のデータと分析を提供することを通じコーヒー部門の透明性を高め、官民の代表者や組織と協力して新しい手段と仕組み開発する；

・マルチステークホルダーによる地球規模の資金調達メカニズムの構築を検討し、検討結果に応じて、G7、G20、国連総会などの多国間機構から強力な政治的支援とリソースを動員するとともに、多国間および地域の金融機関および民間セクターは、コーヒーセクターの短期および長期の持続可能性に対処するためのこのようなグローバルなマルチステークホルダー資金調達メカニズムの創設を指向する；

・輸出国と輸入国の政府と業界の利害関係者、ドナーコミュニティ、開発パートナー、市民社会全般との対話を促進する；

・実施行動が高いレベルでの調和と一貫性を確保されるために、国内/地域/国際的なすべてのコーヒーセクター民間団体と連携する。

・コーヒーセクターが直面する構造的問題の長期的かつ変革的な解決策を策定するために、関連するすべての利害関係者とのstructured sector-wide dialogueを継続し、2020年9月にインドのバンガロールで開催される第5回世界コーヒー会議で、次回のCEO & グローバルリーダーズフォーラムを開催する；

・追加のリソースを動員し、署名組織代表者（「シェルパ」）の会議を含めすべてのコーヒー利害関係者からのコミットメントを調整および集約するリーダーシップを果たす；
そして

・この宣言におけるコミットメントの進捗状況、およびコーヒーセクター、特に農家の持続可能性に対する影響をすべての関係者がモニターする枠組みを設定する。

London, 23 September 2019

Undersigned organizations:

- illycaffè S.p.A.
- Jacobs Douwe Egberts (JDE)
- Lavazza S.p.A.
- Mercon
- Nestlé S.A.
- Neumann Kaffee Gruppe
- Olam
- Starbucks Coffee Company
- Sucafina
- Tchibo
- Volcafe

Supporting organizations:

- CLAC
- Fairtrade International
- Global Coffee Platform
- Hanns R. Neumann Stiftung
- IDH the Sustainable Trade Initiative
- National Coffee Association of the USA
- Oikocredit
- Rainforest Alliance
- Rusteacoffee
- Specialty Coffee Association
- Sustainable Coffee Challenge

A Flagship Report of the
International Coffee Organization

Coffee Development Report 2019

Growing for prosperity

Economic viability as the catalyst
for a sustainable coffee sector



INTERNATIONAL
COFFEE
ORGANIZATION



The ICO's mission is to strengthen the global coffee sector and promote its sustainable expansion in a market-based environment for the betterment of all participants in the coffee sector.



Coffee Development Report 2019

Growing for prosperity

Economic viability as the catalyst
for a sustainable coffee sector

A publication produced with the support of the
German Federal Ministry for Economic Cooperation and
Development through the Deutsche Gesellschaft für
Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH

Supported by



Federal Ministry
for Economic Cooperation
and Development

Implemented by



Deutsche Gesellschaft
für Internationale
Zusammenarbeit (GIZ) GbR

Contents



Acknowledgements	4	Section A	
Abbreviations	5	Coffee and economic development – the causes and impact of market volatility	18
Foreword	6	1. Coffee and economic development	19
Overview	8	1.1 The economic importance of coffee in producing countries	20
		1.2 Coffee remains a primary export commodity	20
		1.3 Coffee provides a livelihood for millions of growers and workers	22
		2. Determinants of coffee price levels and root causes of the 'coffee price crisis'	23
		2.1 Fundamental factors of supply and demand	23
		2.2 Non-fundamental factors	23
		3. Trends in price levels and volatility	25
		3.1 Trends in real coffee prices	25
		3.2 Price volatility has not increased but remains at critical level	26
		4. The impact of coffee price movements on agricultural incomes and rural livelihoods	28
		4.1 The impact of coffee prices on profitability, income, and livelihoods of coffee producers	28
		4.2 Profitability of coffee production and household welfare	30
		4.3 Concentration of production in highly competitive origins and increased supply risk	30
		5. Impact of coffee price levels and volatility on economic and social development	31
		5.1 The relationship between coffee prices and economic and social development	31
		5.2 Economic and social impact	31
		5.3 Food Security	32
		5.4 Political stability, social coherence and switching to illicit crops	32
		5.5 Migration from coffee producing countries to OECD countries	33
		5.6 Coffee and sustainable development	34



6. Harnessing the growth in the coffee market for equitable and sustainable development	34
6.1 Coffee is a growth market in volume terms	34
6.2 Value creation in the coffee sector is on the rise	35
6.3 Increasing value added at origin	37
7. Conclusion: economic viability as catalyst to achieve a sustainable and inclusive future for the coffee sector	39

Section B	
Solutions to address low price levels, price volatility and achieve economic sustainability of coffee production	42
1. Coffee and economic development	43
2. Solutions at production-level	44
2.1 Farming	44
2.2 Marketing	46
2.3 Key insights	48
3. Solutions at market-level	49
3.1 Sourcing	49
3.2 Marketing	51
3.3 Investments	51
3.4 Key insights	51
4. Solutions at sector governance-level	53
4.1 Price management	53
4.2 Supply management	53
4.3 Demand promotion	55
4.4 Market transparency and trade facilitation	56
4.5 Regulatory incentives around quality, trading practices and sustainability	57
4.6 Investments in supporting services, infrastructure and rural development	57

4.7 Direct income transfers	58
4.8 Key insights	58
5. Current initiatives in the coffee sector	60
6. Collective action and key stakeholder roles	65
6.1 Shared responsibility and complementary solutions	65
6.2 Priority solutions and key stakeholder roles	65

Technical annexes

Technical Annex A	70
Female participation in the coffee sector compared to the agricultural sector	
Technical Annex B	70
Measuring trends in coffee prices: a robust approach allowing for structural breaks and nonstationary volatility	
Technical Annex C	73
Econometric methodology of socio-economic influence of coffee price levels	

World Coffee Conference 2020

World's most preferred beverage coffee is undergoing challenging times. The farmers across the world are battling with Climate change, increasing cost of production and falling prices, thus World Coffee Conference in 2020 in India has aptly chosen the theme 'Sustainability through Consumption'.

The next spurt in the growth of coffee consumption will come from markets like Asia, Africa and pockets of Europe. The rising middle class with urbanisation and millennial generation will be driving this growth. WCC 2020 to be held for the first time in Asia which contributes to about one third of the coffee produce and the fastest growing coffee market thus assumes high significance.

It offers opportunity to engage with Asian countries and explore opportunities of meeting Coffee growers, estate owners, big and small roasters and entire coffee chain from farm to cup.

World Coffee Conference ; Key Focus

Emerging Trends in Global Coffee business

- Strategies and Solutions to overcome sustained price crisis.
- Key drivers for increasing coffee consumption.
- Robusta- Impact on global blends.
- Coffee and Sustainability.
- Specialty and Third Wave coffee
- Coffee & Health: Strategies to communicate benefits to consumers

Technology

- Innovations from Farm to Cup
- New Technologies connecting Farmer to Roaster and Consumer
- New Technologies impacting SDGs

Production

- Climate change & Production
- R&D and new findings

Quality

- Processing
- Organic Coffee, certification etc.
- Phytosanitary issues

www.wcc2020.com

Event Curator

MM ACTIV
Sci-Tech Communications
Media | Events | Partnering | Advisory

For more details contact:

Samanth J Anikar

email: samanth.anikar@mmactiv.com,

info@wcc2020.com

Handheld: +91-9342 696969

URL: www.wcc2020.com



5th World Coffee Conference & Exhibition

参考資料⑤



INTERNATIONAL
COFFEE
ORGANIZATION



Department of Commerce
Ministry of Commerce and Industry
Government of India



Present



Sustainability Through Consumption

www.wcc2020.com



incredible INDIA
Welcomes you



5th World Coffee Conference - 2020

September 7-9, 2020 | Bangalore, India

The International Coffee Organization holds a high-level World Coffee Conference (WCC) to enable discussion around critical topics for the global coffee sector. The first four Conferences have taken place in England (2001), Brazil (2005), Guatemala (2010) and Ethiopia (2016). The 5th WCC 2020 will be hosted for the first time in Asia at Bangalore, India. World Coffee Expo will be another big attraction of WCC 2020.

Event Spectrum

International Conference

World Coffee Expo

Skill Building Workshops

Global CEO Conclave

Asia Group Meet

Buyer-Seller Meet

Field Visits

Golf Championship

Competitions & Awards

Who's Who of Global Coffee Industry

80+ Participating Countries

100+ Speakers & Workshop Conductors

1500+ Delegates

150+ Exhibitors

10000+ Expo Visitors

300+ B2B Meetings

WCC 2020- Attendees Profile

- International ICO Delegates
- Importers & Exporters - Inland & overseas
- Café chains, Stand alone Cafes & franchiser
- Speciality Coffee Fraternity
- Coffee Distributors Retailers & Wholesalers
- Hotels, Restaurants & Catering Professionals
- Mass Grocers, Supermarkets & Malls
- Govt. Officials, Researchers & Educators
- Service Providers, Consultants, General & Others
- Coffee Start-ups and enthusiasts
- Coffee Estate owners, Growers & Farmers
- Coffee brands and companies



5th World Coffee Expo

September 7-9, 2020 | Bangalore, India

World Coffee Expo: Focus

- Coffee Producers & Exporters
- Coffee Machines – Home, Office, Cafés
- Coffee Farm Equipment & Supplements
- Innovation and Sustainable Technologies
- Packaging Industry
- Allied Products & Industry
- IT Solutions for Coffee Sector (Farm to Cup)
- Coffee Brands & Café Chains
- Brewing and Roasting equipment's
- Flavours & Essences
- Coffee Start-Ups
- Coffee Related Processed Foods
- Research & Agro Technology
- Coffee Tourism

Regional Pavilions – Asia, Africa, Latin America

- Allows Regions and Countries to showcase best of their coffees and coffee related equipment as well as their achievements & commitments
- Country Pavilion provides a unique and global stage to engage with the host country and international audience for potential trade & partnerships for shared knowledge and progress.
- These pavilions will be at special designated and prominent locations at WCC Expo for easy access and engagement.
- The organizers will bring extra visibility to these pavilions through print, electronic and digital media as well as invitation to all the stake holders.

Special Focused Pavilions

- Sponsors Pavilion
- Asia Pavilion
- Africa Pavilion
- Latin America Pavilion
- Coffees of India
- Coffee Processing Pavilion
- Coffee Brewing Centre

World Coffee Expo Tariff

Shell Space
(Min 9 Sq mtr)

USD 300
(per Sq mtr)

BLOCK
YOUR DATES

PLAN YOUR TRIP

